現代高校生の語彙表現と心象風景の一断面

-「高校生川柳」における語彙と主題を中心に-

伊藤貴雄*・大池森**
itotakao@hanmail.net・shinoike@hotmail.com

Contents

Ⅰ. はじめに
Ⅱ. 研究方法
Ⅲ. 作品の分析
Ⅳ. おわりに

Ⅰ. はじめに

江戸期より、町人を中心に「大衆参加の文化の代表」(上野 1982)として親しまれてきた川柳が、近年になって再び「ブームの兆し」[1)]を見せている。これまでも、川柳の専門誌はもちろん、新聞やラジオなどで川柳のコーナーが設けられ、多くの投稿が寄せられてきたが、特にここ数年は裾野の広がりが顕著である[2)]。

---

* 弘益大学校、助教授、意味論
** 弘益大学校、助教授、異文化コミュニケーション論

1) 2013年07月19日付「日経トレンディネット」(検索日: 2014年12月23日)
http://trendy.nikkeibp.co.jp/article/pickup/20130712/1050729/?P=3

2) 例えば「ブームの火付け役」(「千葉日報」2011年07月25日付社説)とも言われる「サラリーマン川柳」への投稿作品数が、2013年度には14年ぶりに3万首を超えたのをはじめ、「シルバー川柳」等の市井の人々による川柳の作品集が10万部以上も発行されたという。また、テレビのバラエティ番組など様々なジャンルの放送でも川柳が採り入れられたり、企業や団体、自治体等が独自に開催する川柳コンクールが年々増加しており、「数えればきりがないほどの公募川柳がある」(「長崎新聞」2011年08月25日付)と言われるほどである。なお、このうち「サラリーマン川柳」は第一生命保険株式会社が1987年から主催している川柳コンクールであり、これを対象とした研究には、伊藤(2014)がある。また、「シルバー川柳」は全国有料老人ホーム協会の主催により、2001年から開催している川柳コンクールであるが、同コンクールに寄せられた作品を対象とした研究としては、伊藤・白(2014)がある。

古い歴史を持つ川柳が、このように多くの人々に受け入れられている背景には、「俳句に比べると、川柳は『誰にでも』『気軽に』の利点で裾野を広げた」(「朝日新聞」2014年3月22日付)点や、震災以降における世情の変化や政治不信に対する不満などの「はけ口」[3]となっている点などが指摘されている。ただし、このような川柳本来の特性や社会状況と共に、川柳のかつてない広がり[4]を可能にした要因のひとつは、インターネットの普及[5]であろう。ほとんどの公募川柳は、インターネット上で募集されており、思いついた作品を、すぐに投稿することができる。また、募集の告知や入選作品の発表も、主にホームページで発表されることが多く、誰でも手軽に閲覧できるようになっている。

いずれにしても、「庶民の本音」(小泉　2012)が詠み込まれたテクストとしての川柳は、その時代を生きる人々の心象風景のみならず、使用語彙の傾向性や、それらの語彙に託された意味的特徴を知る上で、またとない貴重な資料[6]であると言えよう。

そこで本稿は、「高校生川柳」[7]を対象として、「語彙」と「主題」という観点から、今を生きる日本の高校生の語彙表現の特徴を分析し、彼らの胸の内に映じた心象風景の一端を描き出そうとするものである。

---

3) 2011年07月25日付「千葉日報」社説では、川柳選者の永藤我柳の以下の見解を紹介している。「ストレートに言えない怒りや不満も川柳では言えます。もはや川柳以外にはけ口がないと言ってもいいでしょう」

4) 林(1955)によれば、江戸期に残された川柳の数は約20万句であるという。これに対し、現代では、例えば「サラリーマン川柳」には、これまで約96万句が寄せられ、「高校生川柳」だけでも、13万句の応募があったことを考えると、かつてない広がりを見せているといえるだろう。また「朝日新聞」(2014年03月22日付)によると、公募川柳に投稿する愛好家は、およそ15万人にのぼるという。

5) 総務省(2014)によると、2013年度末における日本のインターネットの普及率(個人)は、82.8%である。

6) このように川柳から世相や暮らしの情景を分析した研究は、主に古川柳を対象として行なわれてきた。例えば古川柳から経済状況の分析を試みた近藤(1954)をはじめ、庶民の衣食住に関して考察した近藤(1955)、庶民の旅の様子を観察した山本(1994)、囲碁に関する作品に特化して分析した林(1995)等が挙げられる。

7) 正式名称は「全国高校生川柳コンクール」である。

Ⅱ．研究方法

本稿において分析対象とする「高校生川柳」は、福岡大学の主催により2005年から毎年行なわれている川柳コンクールである。対象者は高校生であること以外に規定はなく、テーマも自由である。応募作品数の規模は、第１回(2005年度)の時点では全国74校の3,434名から8,301作品が寄せられていたが、第10回(2014年度)では123校の8,012名から18,574作品の応募があるなど、増加している。この中から約50首が入選作品に選ばれ、ホームページ上で公開される[8)]。本稿では、第１回から第10回までの入選作品、全531首を資料として、作品に用いられた語彙と主題を中心に分類し分析していく。

分析する資料として「川柳」を選んだ理由は、第一に、同一の形式による多数の標本の収集が可能である点、第二に、客観式のアンケート等に比べて、作者の率直な心情が表れていることが期待できる点[9)]、第三に、同じく定型詩である俳句に比べ、季語や切れ字といった作句における規則がなく、自由度が高いことから、より幅広く多種多様な表現が期待できる点、第四に、極端にくだけた口語や文語に片寄ることなく、かつ第三者にも理解できる表現によって記述されていることが挙げられる。

また、数ある公募川柳の中で「高校生川柳」を選定した理由は、第一に、対象者(作者)の属性が限定されているため、特定の階層の人々の特徴を把握しやすい点、第二に、高校生を対象とした公募川柳[10)]の中でも、同コンクールのよう

---

8) 大会ホームページが開設されている(検索日：2014年12月22日)。
http://www.fukuoka-u.ac.jp/unv_gide/fkus/senryu2014/

9) このような特徴について、大会主催者である福岡大学は、俳句の主題が「自然が中心」であるのに対し、川柳のテーマは「人間が中心」であり、「人そのものをあらゆる角度から観察」して「人間の実体的真実」たる「外見から見えない心の内側」をも詠む、「人間を描写する文芸」であると述べている。
http://www.fukuoka-u.ac.jp/unv_gide/fkus/senryu2014/what.html　(検索日：2014年12月26日)

10) 選考・審査過程のないインターネット上での公募川柳などが見受けられるが、いずれも匿名による投稿であり、本稿の分析資料としては適切ではないと判断した。また、レオパレス21(民間企業)が「高校生川柳コンテスト」の開催を発表したが、本稿の執筆時点では未だ募集が終了しておらず、採用することはできない。

に10年分に及ぶ作品の蓄積があり、作者の学校名と氏名まで公開するなど、資料としての信頼性が高く、なおかつ社会的な認知度が高いものは、他には見当たらない点を考慮した。

そして、高校生の作品を対象とした理由は、第一に、この世代が「感受性の高い時期」(山下 2011)であり、柔軟な発想力[11]を持つ年代であることから、自由[12]かつ多彩な表現が期待できる点、第二に、彼らが豊かな感受性ゆえに「最も社会的状況の変化を受けやすい」(下権谷 2004)年代であると同時に、若者文化、大衆文化における「中心的アクター」(大多和 2011)とも言われるように、言語を含む社会文化とその変化[13]に影響を与える存在であることから、目まぐるしく変化する日本語の「今」を捉える上で有用である点、第三に、そうした感受性・柔軟性を持ちつつも、成人に近い国語力を備えていることが期待される点から選定した。

なお、具体的な研究方法は、以下の通りである。まず、頻出語彙を抽出し、語彙使用の傾向について観察する。次に、それぞれの作品における中心的な内容を「主題」として捉え、分類および分析を試みる。ここで、語彙と共に主題に注目する理由は、例えば同じ話題であっても、異なる語彙や比喩などを用いて表現されている場合[14]も多いため、頻出語彙の抽出のみでは、全体像が捉えきれないためである。

以上のような理由から、上記のような方法論に基づき、現代日本の高校生における語彙表現の特徴と、心象風景の一断面について考察していくことにする。

---

11) 寺沢ほか(2007)は、高校生と老年期の被験者を比較した結果、高校生は枠組みにとらわれない、柔軟な発想力に長けているという結果が表れたという。

12) 塩田・滝島(2013)は、高年層になるほど言葉遣いに関して保守的傾向が顕著であるという調査結果を明らかにしている。また「成人後の規範意識」が「自然な言語変化を抑制する」要素として働くと述べている。

13) 金杉(2012)は、世代間の認識差が言語の変化に与える影響について「ある世代間では常識である事柄が、ひと度、世代が違えばものの見方が違い、それが原因で言葉の変化が起こり始める」と述べている。

14) 例えば「お弁当 開けて伝わる 母の愛」では、語彙からも「母の愛」に関する作品であることがわかる。だが「お弁当 ケンカしたのに できていた」では、母と喧嘩した翌日の情景から、先の作品と同様に、弁当から母親の愛情を感じているが、「母」「愛」という語彙がないために語彙集計では把握できない。

Ⅲ. 作品の分析

1. 頻出語彙の種類と傾向

下の<表１>は、第１回から第10回までの入選作品、531首において、10件以上の使用が確認された語彙をまとめたものである。まずはこの資料から、高校生たちの関心事と、語彙選択の傾向について窺い知る手がかりを探ってみたい。

〈表１〉高校生川柳における頻出語彙

	語彙	件数		語彙	件数
1	母	55	10	夢	12
2	夏	43	11	友	11
3	父	31	12	僕	11
4	親	17	13	恋	11
5	顔	16	14	蟬	11
6	君	15	15	ありがとう	10
7	私	14	16	俺	10
8	自分	14	17	一言	10
9	携帯	13	18	先生	10

1.1. 家族と自分に関する語彙

全体的傾向を意味の類似性から分類すると、自分を含む家族に関する語彙が最も多く(152件)、「母」が際立って多い[15]。「父」も31件と少なくないが[16]、母との差が大きいのは、親密度[17]や接する時間[18]が関係しているかもしれない。だが、兄弟は４件(弟２、兄１、姉１)、祖父母が９件(祖母６、祖父２、祖父母１)であることを考えると、父母共に高校生にとって大きな存在のようである。

15) ここには「母(41件)」のほかに「お母さん(3件)」「母さん(2件)」「母ちゃん(1件)」「おふくろ(1件)」が含まれる。リクルート(2013)によると、高校生が母親に直接呼び掛ける際、男子は「お母さん」(46%)が最も多く、「かあさん」(17%)が続き、「ママ」(9%)も１割程度使われているという。女子も「お母さん」(45%)が最も多いが、「ママ」(36%)がその次に多いという点で性差が認められる。

16) 「父」(29件)以外に「父親」「お父さん」(各2件)「親父」「おやじ」「父さん」(各1件)が含まれる。

17) NHK(2012)によれば、高校生のうち、母親との関係が「うまくいっている」と答えた割合が76.4%であるのに対し、父親との関係では54.3%と、20%以上の開きがある。

18) 内閣府(2007)によると、子供と接する平均時間は、母親が7.6時間、父親は3.1時間である。

また、自分に関する語彙選択では、男子の自称詞として「俺」より「僕」が多用されている点が興味深い。尾崎(1995)によると、中高生の男子の場合、同級生に対しては「俺」の使用率が高いのに対し、教師や来客などには「僕」の使用率が高くなるという。即ち「『オレ』は親しい間柄で使用する自称詞、『ぼく』はていねいさを要求される間柄で使用する自称詞」(西川　2003)[19]であるとすれば、自称詞の使い分けが行なわれており、「僕」の使用率の高さから「文語」という意識と共に、川柳の投稿をフォーマルな場として捉える意識が作用しているようである。

1.2. 季節・天候に関する語彙

次に、季節・天候に関する語彙(54件)として「夏」「蝉」が挙げられるが、何れも「夏」に関するもの[20]である。季節の中で「秋」(8件)「春」(4件)「冬」(1件)に比べて「夏」が多いのは、川柳の募集が6月から9月にかけてである影響が大きいと思われるが、夏休みに当たるため自由時間が増えることや、祭り等のイベントのほか、クラブ活動の合宿や大会等、記憶に残る出来事が起こりやすいものと推測される。一方、受験生にとっては「夏を制する者は受験を制す」等と言われるように、受験や進路が強く意識される[21]季節であることも影響し得るであろう[22]。

また、「蝉」が数多く登場している点も興味深い。いずれも夏の季語として用いられており、様々なイメージが込められているが、次節の主題による分類では扱いにくいため、実際の作品の一部を引用して分析する。

(1) 2006-12[23] **両親**が 僕にとっては 夏の**蝉**

19) 西川(同)は幼児に対する調査を通じて、男児による「オレ」の使用には「自己主張の道具としての機能」と、同性の「友達関係を確認しあう機能」を持つと述べている。

20) 「夏」(14件)の他に「夏休み」(14件)「夏祭り」(2件)「初夏」「夏納め」「夏空」(各1件)を含む。

21) 高校生にとって受験や進路の問題は強く意識せざるを得ない問題である。NHK(2012)によると、高校生が「悩み」として多く挙げたのは「将来」(60.2%)と「成績, 受験」(54.5%)であり、その次に多かった「友人関係」(16.2%)と比べても、大きな課題として意識されているかがわかる。

22) このほか、好きな季節も影響しているようである。NHK放送文化研究所(2008)によると、多くの日本人が「好きな季節」として春(69%)と秋(55%)を挙げ、「好きな月」でも4月(45%)や10月(44%)の人気が高いのに対し、若年層(16~29歳)では、8月が最も好まれている。

23) 作品を引用する際には、このような表記方法をとる。この作品では「2006」は2006年度の入選作品である事を示し、「12」はホームページ(入選作品一覧)の12番目に掲載されている事を表わす。

(2) 2014-40 蝉時雨 怠惰な朝の **目覚まし**に

(3) 2006-12 先生と セミの声とが **子守歌**

まず、上の3首では、蝉の鳴き声を用いているが、イメージの託し方は様々である。まず(1)では「うるさい」ことを表現しているが、(2)では「うるさい」ものの、それを「目覚まし」として肯定的に捉えている。さらに(3)では、反対に眠りを誘う「子守歌」と詠んでおり、同じ鳴き声を用いて、豊かな感性を発揮している。

(4) 2014-21 夏が過ぎ 消えてゆく蝉と 増す不安

(5) 2014-25 夏休み 私もセミも 脱皮した

次に、上の2首は蝉に「過ぎ去る夏」のイメージを託している。(4)では「消えてゆく」と表現しているが、蝉の姿というより、鳴き声が聞こえなくなっていく様子を「消えてゆく」と表現し、受験が近づくことに不安を覚えているようである。

一方、(5)では鳴き声ではなく、蝉の「脱皮」する点を用いて、自分も脱皮したと詠んでいる。その具体的な意味は明らかにされていないが、夏休みの終わり頃であると推定されることから、日焼けをして皮が剥けたことを意味しているか、あるいは「ひと皮剥けた」と言うように、成長を意味しているのかもしれない。

1.3. 身近な人々に関する語彙

このほか、「君(きみ)」「友」「先生」[24]など、家族以外の自分を取り巻く人々に関する語彙(36件)も多用されている。「君」は友人のほか、恋愛対象を指す代名詞としても使われているが、作品の内容から友人を指すと判断されるものが5件、恋愛対象となる人物を指すと思われるものが10件である。いずれにせよ、高校生にとって、友人関係が重要であることが表れているようである。NHK(前掲書)によると、彼らが「関心のある事」は「友達づきあい」(60.0%)が最も多く、「学校で一番楽しい事」も「友達と話したり一緒に何かする事」(76.6%)が際立って多い。さらに「悩みごとの相談相手」も「友達」が59.6%と、半数以上を占めている。

24) 「先生」(9件)のほかに「センセ」(1件)が含まれている。また「教師」も4件確認されている。

一方、先生に関しては「学校で一番楽しい事」として「先生と話したり一緒に何かする事」と答えたのは、わずか1.3%に過ぎず、「悩みごとの相談相手」の項目でも、1.8%と低調である。「関心のあること」では17.2%であるが、選択肢が「学校、先生のこと」となっているため、先生のみを指している訳ではない[25]。このように、一見、主な関心の対象とはなっていない「先生」が、どのような意味・イメージをもって詠まれているかは、次節において見ていくことにしたい。

1.4. 情意的語彙

次に「夢」「恋」「ありがとう」といった情意的語彙(33件)も多く挙げられている。まず「夢」に関しては、睡眠中の夢という意味で用いられた作品はなく、「将来の夢」が10件、歴史や宇宙についての「ロマン」の意味で用いられた事例が2件であった。また「恋」[26]に関しては、「恋をする」(2件)という使い方以外に、「夏の恋」(2件)をはじめ、「この恋」「恋の花」「恋の味」「恋の場所」(各1件)等、他の語彙との結合により、名詞句を形成させている点が特徴的である。なお、作者の性別は、男子が6件、女子が5件と、僅かに男子が多いものの、ほぼ同数である。

一方、「ありがとう」は情意的な語彙であると同時に、次項の「一言」と共に、言語表現に関する語彙として分類することもできるが、まず「ありがとう」の使われ方を見ると、作者自身の感謝を表現しているものが9件、感謝された出来事を詠んでいる事例が1件である。また、前者の9件のうち、感謝の対象が明示されているか、あるいは内容から明らかに判断できるのは7首である。このうち母親が2首、父親が1首、両親が2首、友人が1首、「みんな」が1首である。ここで興味深いのは、父・母または両親を対象とした作品が、例外なく、面と向かって「ありがとう」と言うことの難しさが包含されている点である。この5首のうち、2首はそれぞれ「父の背」「母の背」に、1首は「弁当箱」に「ありがとう」と述べており、うち1首は「口には出さず」と詠んでいる。また、残りの2首では「なかなか言えない」「意外と言えない」と、率直に難しさを吐露している。

---

25) 但し「担任はあなたのことをよくわかってくれているか」という問いでは「よくわかってくれている」(28.4%)と「まあわかってくれている」(55.1%)の合計が83.5%と、信頼関係が認められる。

26) ここには「恋」(8件)のほかに、「恋愛」(2件)と「恋心」(1件)も含まれている。

1.5. 言語表現に関する語彙

ここでは、言語表現に関する語彙として「一言」について観察する。「一言」は、その内容が肝心であると共に、上述の「蝉」と同様に、次節の主題分類では扱うことが難しいため、ここで具体的な作品を通して、使われ方の特徴を見ていく。

(6) 2014-33　胸が鳴る **消しゴム貸して**の **一言**で
(7) 2006-48　ダイエット 食後に**一言** **明日から**
(8) 2013-37　**一言**が 一瞬のうちに **凶器へと**

まず「一言」の位置に注目すると、(6)では下五に、(7)では中七、(8)では上五に配置されている。(6)と(7)では、上五の「胸が鳴る」「ダイエット」によって、それぞれ「恋愛」「ダイエット」が主題であることが示されている。そして「一言」の発言者は明記されていないが、(6)は作者が好意を寄せる相手のようである。この句では、下五の「一言で」によって、「消ゴム貸して」という一言が、胸を高鳴らせた原因であることを示している。次に(7)では、「一言」が下五の「明日から」というオチを引き出し、結局はダイエットに失敗していることが明かされている。

これに対し、(8)では「一言」自体が重要なテーマとして配置され、発言者や具体的な発言内容は示されず、人が発した一言そのものが、時には「凶器」として心を傷つける鋭利さが、「一瞬のうちに」という表現によって強調されている[27]。

1.6. その他の語彙

最後に、「顔」と「携帯」について見ていきたい。まず「顔」に含まれるのは「顔」(12件)と「横顔」「泣き顔」「笑顔」「寝顔」「顔色」(各1件)である。そして、誰の顔か

27) 「一言」を用いた他の7首について、このような観点から分析すると、まず「一言」はすべて中七に配置されている。次に、いずれも一言の内容が明示され、発言内容が上五にあるものが5首、下五が2首である。そして、発言内容が上五に配置された作品は、いずれもその一言が原因となり、その結果が下五に示されるという構造になっている。例えば、教師の「(試験に)よく出ます」という一言で「眠気とぶ」という結果を生んでいたり、「ありがとう」と言われたこと(原因)で「介護士に」なることを決めた(結果)という事例などが挙げられる。一方、下五に発言内容がある作品は、いずれも下五が「オチ」の機能を果たしている。例えば「そうじせぬ」母に理由を訊ねたところ、「節電中」という答えが返ってきた、という作品などが挙げられる。

に注目すると、「母の顔」が5件、「僕の顔」「センセの顔」「祖母の顔」「君の横顔」「彼の顔」が各1件、内容から自分の顔と判断されるものが2件、家族の顔と思われるものが1件である。「鬼の顔」も1件あるが、内容から母親の顔と考えられ、やはり「母」が多くの作品で、題材として選ばれていることがわかる。なお「母の顔」は「優しい顔」として描いた作品は1首であり、「自分の顔と似ている」と表現したものが1首、それ以外は「鬼の顔」のように「怖い顔」として描かれている。

次に「携帯」は、「物」としては唯一、頻出語彙に集計された。ここには「携帯」(4件)のほかに「携帯電話」「ケータイ」(各1件)、「スマートフォン」(5件)、「スマホ」(3件)も含まれるが、高校生にとって、良くも悪くも携帯電話が身近な存在である事が表れていると言えよう。なお、2010年までの5首では「携帯」「ケータイ」「携帯電話」のみが用いられているのに対し、2011年以降の7首では、「携帯」は1件のみで、他の6首は「スマートフォン」「スマホ」が使われており、彼らを取り巻く環境の変化が表れているようである。

内容は「携帯電話の普及により、むしろ孤独感が増している」という趣旨の作品が5首と最も多く、「携帯への依存度の高さ」が3首、「携帯には長所・短所の両面がある」ことを指摘した作品が3首、「便利さ」を表現したものが2首となっており、どちらかと言えば、否定的な側面を捉えた作品が多数を占めている。

以上のように、語彙分析から、高校生の様々な語彙選択の特徴や、多様な意味・イメージが託されていることが把握された。また、彼らを取り巻く日常生活の環境が、作品や語彙の選択にも如実に表われていることが理解される。

2. 主題の分類と傾向

Ⅱ章において言及したように、川柳の作品には、仮に同様の話題であっても、異なる語彙や比喩・暗喩などを用いて表現されている場合も多いため、頻出語彙の抽出のみでは、表現上の特徴や心象風景を捉えるには不十分である。そこで本節では、各作品の中心的な内容を「主題」として分類を試み、分析していくことにする。

〈表 2〉高校生川柳における主題の分類

	大分類	句数(首)	下位分類	句数(首)
1	高校生関連	273	勉強・受験	85
			恋愛	41
			学校生活	30
			友情	24
			授業	20
			部活	18
			夢・目標	15
			努力・挑戦	14
			先生	12
			青春・思春期	10
			悩み・悲しみ	4
2	家族関連	122	母	56
			父	26
			両親	20
			祖父母	9
			家族	7
			兄弟	4
3	日常関連	93	日常風景	38
			季節・天候	34
			気づいたこと	17
			容姿・ダイエット	4
4	社会関連	43	社会問題	24
			東日本大震災	19
合計		531	合計	531

2.1. 高校生関連

まず最も多いのは、高校生ならではの生活に関する「高校生関連」(273首)の作品である。下位分類は、多い順に「勉強・受験(85首)」「恋愛(41首)」「学校生活(30首)」「友情・友人関係(24首)」「授業(20首)」「部活(18首)」「夢・目標(15首)」「努力・挑戦(14首)」「青春・思春期(10首)」「悩み・悲しみ(4首)」である。

大分類の中で最も多数を占める「高校生関連」の中でも、多く主題として選ばれているのが「勉強・受験」である。語彙分析の中でも触れたように、やはり高校生にとっては、日常において強く意識せざるを得ない題材のようである。

(9) 2012-52 完璧だ 計画だけは 優等生
(10) 2006-32 明日から 明日になっても 明日から
(11) 2014-10「五分だけ」ふとんに入ると 次の朝
(12) 2008-26 夏休み 友達欧州 僕補習
(13) 2008-25 成績の 変化はまるで 二次関数
(14) 2006-07 頑張れと 言われて無くす やる気かな

勉強を主題とした作品に共通するのは、「頑張らなければいけないことは分かっているが、うまくいかない」という悪戦苦闘ぶりである。(9)のように、はじめは張り切るのだが、いざ始めようとすると、(10)のようになかなか手につかなかったり[28]、(11)のように、仮眠のつもりが朝になってしまったという作品も複数見られる[29]。また(12)のように、様々なことを我慢して勉強している[30]が、(13)のように、思うような成績は出ない様子である[31]。だが、そうした様子を見かねて投げ掛けられた励ましも、(14)のように逆効果の場合もあるようである。

(15) 2005-20 恋愛も 方程式で 解けたなら
(16) 2006-18 黒板を 見てるふりして 君を見る
(17) 2007-13 緊張で 告白メール 送れない
(18) 2013-18 告白を 電波なんかに 頼るなよ

先の語彙調査では、「恋」に関するものは11件のみであったが、「恋愛」を主題

28) このほかに、「今日もまた 鉛筆削りて 床につく」(2009-52)や「宿題は ウォーミングアップで ギブアップ(2011-14)」といった作品が見られる。
29) たとえば「三十分 仮眠のはずが 朝日さす」(2006-41)や「少しだけ 仮眠のはずが もう朝に」(2007-23)などがある。また「完璧に 解けたところで 目が覚める」(2006-34)と、眠りについた自覚がないのに、いつの間にか寝てしまい、夢の中で勉強していた様子を詠んだ句もある。
30) 「友達は 彼女とデート オレ補習」(2007-33)や、「音だけで 花火楽しむ 受験生」(2008-03)など、何かを我慢している様子を詠んだ作品は、これらを含めて6首ある。このような生活は辛いようで、「窓の外 笑う子どもが 羨ましい」(2007-22)という心情を吐露した句もある。
31) (13)のように、勉強に関する語句を、何かの比喩として用いている作品も複数見られる。例えば(13)と同様に二次関数を用いて「とけていく アイスととけない 二次関数」(2014-03)という句がある。手に持ったアイスが溶け、時間が経過しているのに、肝心の問題は解けない様子が描かれている。このほかには「ベクトルの 向きが見えずに 道まよう」(2005-38)や「ネイティヴの 発音聴けば ネガティヴに」(2007-04)等がある。

とする作品は42首にのぼり、関心の高さを窺わせると共に「恋」という直接的な語彙を使うだけでなく、様々な表現方法を用いていることがわかる。

恋愛に関する作品の特徴は、積極的に恋愛を謳歌するというより、片想いや、密かな恋心を託したものが多い点である。(15)や(16)もそうであるが、「方程式」や「黒板」など、学校ならではの語彙を用いており[32]、彼らにしか詠えない恋模様が描かれている。(17)では、そうした片想いの心情が詠まれていると同時に、告白の手段としてメールを選択している点で、現代の恋愛事情[33]の一端を反映している。一方、(18)ではそうした風潮に異を唱えている点も興味深い[34]。

(19) 2007-49 いつもより ペダルが重い 月曜日
(20) 2007-24 金曜日 体は重いが 気は軽い
(21) 2006-49 すぐ分かる 校舎をさまよう 一年生
(22) 2014-27 ズボン丈 少し短い 三年生

次に、授業以外の「学校生活」全般を主題とした作品では、(19)(20)のような登下校の姿や、(21)(22)のような校舎での日常風景が詠まれている。なお、上記の4首は、全て別の作者によるものだが、(19)と(20)、(21)と(22)の作品はまるで返歌の如く対応した内容となっている[35]。(19)では日本の高校生らしく[36]、自転車通学の様子を詠んでいるが、「これから一週間が始まる」という思いから、気持ちが進まないようである。一方、(20)では、何とか一週間を乗り切り、体に

32) (15)の場合は、勉強に関する語彙を比喩として用いた点で、(13)などと共通している。このほかには「恋愛の 技術は持たない 工業生」(2007-01)なども類似している。また、「好きな子の イニシャルさがす 化学式」(2007-48)や「少しだけ 内緒で座る 貴方の席」(2010-15)、「席替で 君が見えない　君の前」(2007-47)も、学校生活ならではの語彙を用いて、密かな恋心を表現している。一方、この「席替」の作品と対応するような「席替の 意味を持たない 男子校」(2007-30)という句からは、他の作品に詠まれているような、共学での情景への憧れが窺える。

33) NHK(前掲書)によれば、高校生のうち、好きな異性が「いる」と答えたのは30.5%、特定のつきあっている相手が「いる」と答えたのは19.9%であるという。

34) メールなどによる告白は、確かに現代の恋愛事情の一端を反映してはいるが、主流ではないようである。リクルート(2013)によると、調査に答えた高校生(300名)のうち、実際の告白の手段として「メール」を選んだのは16.3%で、最も多数を占めたのは「直接言う」(61.5%)である。

35) このほかにも「制服の ボタンを外して クールビズ」(2005-39)と「丸坊主 これが自分の クールビズ」(2008-21)のように、様々な事例が確認できる。

36) ベネッセ(2009)によれば、高校生のうち自転車通学をしている比率は50%を超えるという。

は疲労が溜まっているが、翌日が休みだという思いから、気持ちが軽やかな気持ちを表現している。また、(21)と(22)では、それぞれ校内の位置関係に不慣れな様子、体が成長してズボンの丈が短くなってしまった姿から、各学年の特徴を描いている。こうした学校生活における「何気ない情景」についての生き生きとした表現は、現役の生徒たちの視点でしか描けない生活の一断面であり、川柳という枠が提供されたことで、形となったものであると言えよう。

(23) 2005-18 新友が 親友となり 心友に
(24) 2013-11 百人の 友達いないが 君がいる
(25) 2012-10 ケンカして 落ち葉と一緒の 帰り道
(26) 2008-39 ゴメンねを 正面から言う 真の友
(27) 2009-19 秘密だよ そうして広がる 隠しごと
(28) 2010-46 傷ついて 初めて学ぶ その痛み

これらは「友情・友人関係」を主題とした作品である。(23)では「しんゆう」をテーマとして、新しく出会った友がかけがえのない心の友になっていく過程が描かれている。(24)では、そうした友の大切さが表現されているが[37]、いかに親しくとも、時には(25)のように喧嘩をすることもあろう。しかし、(26)のように、素直に謝れること[38]が「真の友」の証のひとつのようである。だが(27)では、大人の社会と変わらない[39]、人間関係の醜い部分が、鋭く穿たれている。しかし、(28)に詠まれているように、様々な経験を通して、彼らは大切なことを学んでいくようである[40]。

---

37) このほかにも「友達と 過ごす時間が 宝物」(2008-07)、「ありがとう 君に出会えて 変われたよ」(2009-08)などの作品でも、友達の大切さが表現されている。

38) 謝ることをテーマとした他の作品(3首)には、面と向かって謝る難しさが表現されている。「ごめんねと 言えばいいのに メールする」(2012-21)や「文字でなら 素直に言える ごめんなさい」(2007-16)がそうである。両作品とも、「メール(文字)」なら謝ることができると表現しているが、裏を返せば、直接、言葉で謝るのは難しいということであろう。しかし、だからこそ「正面から言う」ことができるのは「真の友」なのであり、「ごめんねと　言われてはじめて　涙でる」(2007-26)という作品のように、心に響くのであろう。

39) 例えば、働く女性を対象とした「女子会川柳」には「社内中 みんな知ってる でも『秘密』」(シティリビング編集部ほか 2013)という作品が見られる。

40) 「苦しみが 友との絆を 深くする」(2009-29)も、様々な経験から学んだことが詠まれている。

(29) 2008-48 先生の 知識がつまった 子守歌
(30) 2005-09 当てないで！ そう思うほど 当てられる
(31) 2007-15 教室が パッと静まる 着信音

次に「授業」に関する作品の内容は、上の3つに分類される。まず最も多いのは(29)のように、授業中の居眠りや退屈さを詠んだ句で、20首中16首を占める[41]。勿論、先生が本当に子守歌を歌う筈はなく、知識を伝授している訳だが、何故か眠気を誘うため、先生の声を「不思議なこもり歌」(2005-52)と表現した句もある。ほかには(30)のように、望まない時に限って先生から指名されるという経験を詠んだ作品が2首[42]、(31)のように、携帯電話の着信音が鳴った瞬間の教室のひやりとする雰囲気を描いた作品が2首[43]である。

(32) 2008-19 好きなんだ 毎日言える 演劇部
(33) 2014-15 夏休み 汗を流して 得た絆
(34) 2011-34 後輩へ 希望をたくして バトンパス

続いて「部活」に関する作品を見ていく。ベネッセ(2009)によると、高校生のうち、クラブに所属する割合は71.7%と高い数値を示している。即ち、多くの高校生にとって、部活も学校生活に欠かせない日常のひとコマであると言えよう。

「恋愛」に属する作品に「君が好き　たった5文字が　言えなくて」(2011-26)という作品があり、彼らにとって、相手に思いを打ち明けることの難しさを物語っている。しかし(32)では、そのように難しい「好き」という言葉を、台詞ではあるが、毎日のように言えるという「特別な感じ」が表現されている。だが、別の観点から見れば、やはり実際の場面では難しいからこそ、特別に感じるのであろう。

---

41) 例えば(29)と同じく、先生の声を子守歌に喩えた「先生と　蟬の声とが　子守歌」(2005-14)「先生の　声は不思議な　こもり歌」(2005-52)をはじめ、特に午後が睡魔に襲われる時間であることを詠んだ「机から　枕にかわる　午後三時」(2005-5)「屍が　沢山積もる　五時間目」(2006-51)などがある。特に後者の2句は「机」と「枕」の字体の類似性を活用したり、次々と机に伏していく様子を「屍」に喩えるなど、豊かな感性を発揮した作品であると言えよう。
42) もう一首は「わからない　そんな時だけ　指名され」(2008-08)である。
43) 「授業中　空気が凍る　着信音」(2009-50)という作品である。

一方、(32)では「演劇部」という具体的な名称を用いているが[44]、(33)のように部活の内容は示さず、経験から得た事を詠んだ作品も確認された[45]。また、高校のクラブ活動には3年間という期限がある。(34)ではそうした情景が描かれているが、だからこそ「ひと夏に　かける想い」(2014-44)が格別な意味を持ち、それぞれの「名場面」(2010-19)が、深く心に刻まれるのであろう。

(35) 2005-50 夢がない 夢を見つける 夢がある
(36) 2008-52「夢がない」だけどなりたい 公務員
(37) 2014-39 現実と 相談しながら 夢えがく
(38) 2006-25 願い事 夜空にいっぱい 夢花火
(39) 2009-18 先生が 必死で探す 僕の夢

次に「夢・目標」に関する作品である。特に(35)(36)では表現手法にも注目したい。(35)は「夢がない」から始まり、悲観的な内容と思いきや「夢を見つけるという夢」があるという。上五と下五の意味は正反対であるが、中七によって見事な反転が行なわれ完結している。また、「夢がない」状況に変化はないが、それを別の観点から捉え、「夢がないからこそ成立する夢」が語られているのである。

一方、(36)も「夢がない」から始まるが、鉤括弧を用いることで、人から言われた言葉であることが理解できる。公務員になりたい理由は明らかではないが、(37)のような心情から生まれた目標なのかもしれない。だが、のびのびとした理想がない訳ではなく、(38)では夜空一杯に広がる花火を、自身の願いに喩えている[46]。なお、ここに分類された15首のうち、(39)のように本当に夢がない様子を詠んだものは、これを含めて3首である。どちらかといえば、夢がない方が少数のようである[47]。

---

44) 部の名称ではなく、関連語彙を用いて、部活動の内容がわかるように表現している作品も見られる。例えば、「木刀」(2005-08, 剣道部)や、「引きしぼり 思いと共に 矢をはなつ」(2007-53, 弓道部)、「マウンド」「野球帽」(2013-47, 野球部)などが挙げられる。

45) 「夏休み 一緒に走って 得た絆」(2013-09)や「部活動 汗の分だけ 強くなる」(2011-50)など。

46) このほかに「願い事 思い込めすぎ 笹おれる」(2014-36)「流れ星 願いが多く 間に合わず」(2006-52)にも、たくさんの願いを持っていることが表現されている。

47) ベネッセ(2013)によれば、約6割(58.3%)の高校生が「夢がある」と答えている。一方「夢がない」は13.4%に過ぎず、あとの28.3%は「わからない・考えたことがない」と答えたという。

(40) 2009-34 奇跡とは 努力が起こす 魔法です
(41) 2010-20 あげなくちゃ 偏差値以上に 人間性
(42) 2010-24 ひまわりが 上をめざせと 叫んでる
(43) 2014-49 できるよと 自分に言って 第一歩

「努力・挑戦」に関する作品の内容は、上の句のように「努力の重要性」「人間的成長」「前向きな心」「一歩の重要性」に大別される。(40)では奇跡を努力の結果としているが、別の観点から見れば、努力は奇跡すら起こす力があると理解することもできよう[48]。(41)は、頭ばかり良い人間になりたくないということだろうか[49]。人として大切なことを忘れまいという心情が感じられる[50]。(42)では前向きな姿[51]を、常に太陽を向く向日葵[52]に託している。(43)では、一歩を踏み出す姿に、挑戦の気概が表現されている[53]。

(44) 2009-11 ゆめ探せ そういう先生 よめ探せ
(45) 2009-41 職員室 クーラーあるのに 汗がでる

「先生」を主題とした作品は、(44)のように先生の人間的な一面を題材として親近感を込めて詠んだもの[54]と、(45)のようにあくまで教師という距離感から、

48)「頑張った 努力は自分を うらぎらない」(2009-44)「雪の下 努力をすれば 花が咲く」(2010-24)という作品も、これと同様の信念が詠まれている。
49) ベネッセ(前掲書)によると、高校生に「あの人のような生き方をしたいと思える大人はいるか」と訊ねたところ、83%が「いない」と答えた。「いる」と回答した17.0%に具体的な人物を訊いた結果、「親」が16.5%、「先輩」が15.6%なのに対し「学者」は0.9%、「政治家」は0.0%であった。
50)「上げるなら 心の偏差値 ベルトの位置」(2010-20)も同様の表現である。ここで「ベルトの位置」としているのは、ズボンを腰で履く流行のスタイルに対する指摘であろう。
51) このほか「大丈夫 この一言で 前を向く」(2014-48)「辛いこと 笑いにチェンジ 日々前進」(2008-28)なども、前向きな姿を表現している。
52) 向日葵を用いた作品には「辛いとき ひまわり見習い 上を向く」(2013-44)がある。また「恋愛」に分類される句に「あなたしか 見えない私は 向日葵よ」(2013-16)がある。この場合は「彼」が太陽であり、向日葵が太陽に顔を向け続ける姿を、一途な自分の気持ちに喩えたようである。
53)「変わりたい 思ったときが 第一歩」(2014-23)「越えてやる 自分の壁を まず一歩」(2009-09)なども、「一歩」という一言に、挑戦の気概を託しているようである。
54) (44)に近い表現としては「髪切れと 怒る教師は 髪がない」(2008-34)が挙げられる。このほかにも「先生の 服装変わる 参観日」(2013-41)「教えてる センセの顔も やつれ気味」(2006-6)の場合も、やはり「先生も人間なんだな」という印象が込められているようである。

怖い存在として描いた作品[55]に分けられるが、前者が7首、後者が5首と、身近に感じている作品が多い。

ただし、身近に感じたり、人間的な一面をのぞかせてはいても、「鬼教師」という表現[56]など、多くの作品で厳しい一面も強調されている点は、高校生たちの教師観の一端を反映しているようである。

(46) 2009-11 走りたい この衝動は なんだろう
(47) 2009-41 あの頃の 素直な自分は 今いずこ

「青春・思春期」に分類された作品は、主に(46)のように、青春時代特有の衝動[57]や、(47)のように、思春期特有の、不安定で素直になれない心情[58]を詠じた句に分けられる。(46)では、理由もなく走り出したくなるという衝動を詠みつつ、それが青春時代の自我に起因することが明確には自覚されていないようである。一方、(47)では、自分が素直ではなくなってしまっていることを自覚しており、本意ではないのに反抗的になってしまうという、思春期らしい自分の心の変化に困惑しているようである。

(48) 2007-45 ゴミ捨て場 肩の重荷も 捨てさせて
(49) 2008-41 くやしくて 雨と偽る その涙
(50) 2011-36 後悔と 一緒に残る 日焼け跡
(51) 2012-47 川遊び したあの場所も 消えていく

---

55) 例えば「職員室 クーラーあるのに 汗がでる」(2010-36)や「ランニング 先生いないと ウォーキング」(2011-05)などは、緊張感を与える存在として描かれている。

56) 「鬼教師 胸ポケットに 愛娘」(2008-23)「離任式 鬼の教師の 目に泪」(2008-14)という2首である。これらはいずれも、普段は厳しい面ばかり見せていた教師のふとした一面から、人間的な親近感を感じているようである。

57) 「生きている こと知りたくて 息止める」(2008-02)や「止めたくて 時計の電池 とってみた」(2011-30)なども、「青春」という語彙は何ら使われていないが、青春らしい若者の抑えがたい衝動に突き動かされる様子が描かれている。

58) 「反抗期 気持ちと態度 反比例」(2009-22)「今はまだ 不安と希望の 交差点」(2006-43)なども そうであるが、自らの不安定さが思春期から来るものであること、そういう時期であることを自覚しながらも、うまく感情をコントロールできない戸惑いと、葛藤が感じられる。

全作品531首の中で「悩み・悲しみ」に分類されたのは、上の4首のみである。主題として数が少ないからといって、彼らの悩みや悲しみが少ない訳ではないだろうが、前向きな主題の方が多いという傾向は興味深いと言えよう。

受験や恋愛を主題とした作品の悩みとは違い、(48)から(50)では、その原因や内容が明らかにされておらず、苦しみや悔しい心情が、情景と共に描かれているのみである。例えば(50)の場合、「日焼け跡」から、夏休みの終わり頃であると考えられるが、何を「後悔」しているかは明らかにされていない。十分な受験勉強をせずに、遊びほうけてしまったようにも思えるが[59]、断定はできない。ただし、「後悔」と「日焼け跡」という表現から、虚しく苦しい心情が伝わる。

一方、(51)の場合は、子供の頃に遊んでいた場所が変わっていく様子から、時の経過と共に、自分も子供でなくなっていく事を感じているのであろうか。

2.2. 家族関連

大分類の中で、次に多かったのは「家族関連」(122首)である。中でも、ここに分類された「母」(56首)は、主題全体の中でも、前項で扱った「勉強・受験」(85首)に次いで、二番目に多い。このほかに、このカテゴリーに属するのは「父」(26首)、「両親」(20首)、「祖父母」(9首)、「家族」(7首)、「兄弟」(4首)である。

(52) 2006-01 弁当で 母の機嫌が よく分かる
(53) 2012-11 ただいまを 包んでくれる 母の声
(54) 2009-31 母の顔 テスト見せると 鬼の顔
(55) 2013-29 温泉で スッピン母ちゃん 見つけれず
(56) 2009-13 いつのまに 小さくなったの お母さん

語彙分析でも触れたように、「母」に関する作品の特徴は、共通する表現が複数の句において用いられている点である。まず、最も多いのは「弁当」(7件)および「母の味」(4件)という、母の手料理に関する表現である。それぞれの作品を分

59) 例えば「夏休み 制するつもりが 満喫し」(2012-47)や「夏休み サボったぶんだけ 倍返し」(2013-34)の場合には、「制するつもり」や「サボった」という語彙から、受験勉強のことであることがわかるが、(50)の場合は明確ではない。

析してみると、(52)のように母親の機嫌が分かるという内容[60]や、母の愛を感じるという作品[61]が確認できる。なお、「母の味」として登場する料理名には「卵焼き」(2007-38)と「肉じゃが」(2014-35)がある。いずれにせよ、彼らにとって母の味は、愛情の象徴であり、「ほっとする」(2007-08)味のようである。

次に、(53)のような「母の声」も7首において用いられているほか、「母の歌」(2012-48)や「母の口」(2014-11)といった表現も見られる。これらの「母の声」に関する作品に共通するイメージは、(53)のような「優しさ」のほか、「勇気をくれた」(2010-05)「聞くだけで 落ち着く」(2012-43)等と形容される一方、「口やかましい」イメージ[62]や、「電話のときだけ 声美人」(2014-24)という表現も見られる。

続いて、「母の顔」も5首で登場するが、その内容は(54)の「鬼の顔」という表現に見られるように「怖い顔」として登場する句が3首、「自分と似ている」という印象を詠んだ作品が1首、「母の姿」という意味で用いた作品が1首[63]である。

(55)に代表されるのは母の容姿に関する作品(3首)である。(55)では母親の「スッピン」が話題となっているが、2首は肥満気味の体型を題材としている[64]。

最後に、(56)のように小さく見えた母の姿や、労苦に関する作品も複数確認される。(56)と同様に、小さく見えた母の姿を詠んだ句が1首[65]のほか、母の苦労する様子[66]や感謝の気持ち[67]、わずかながらも母の苦労を身で感じた情景[68]などが表現されている。このように「母の苦労」を感じたり、いつの間にか母が小さく見えたりするという状況は、中学生まででは難しく、高校生ぐらいから気づきはじめることのようである。

---

60)「お弁当 母のきげんの バロメーター」(2006-16)という作品のほか「お弁当 ケンカしたのに 出来ていた」(2014-16)では、変わらない母の愛が、弁当によって表現されている。

61)「お弁当 開けて伝わる 母の愛」(2014-42)「冷えてても 母の弁当 あったかい」(2013-05)

62)「母の口 マナーモードに きりかえて」(2014-11)「セミに勝つ 宿題やれの 母の声」(2014-12)

63)「試合の日 かげから見える 母の顔」(2010-44)がそうである。また、子供が心配で、こっそり見に来た様子を詠んだ句には「初バイト 客のふりして 母が来る」(2011-17)もある。

64)「散歩して 母より犬が やせてきた」(2010-52)「お金ない それでも母は ふくよかだ」(2009-28)

65)「母の背が 小さく見えた 十八歳」(2014-37)である。また、父の姿も小さく見えることがあるようで、「広かった 父の背中は 今いずこ」(2008-31)という作品も見られる。

66)「母悩む 血圧上昇 物価高」(2008-53)「背をこすも 母の苦労は まだこせず」(2010-53)

67)「ありがとう 口には出さず 母の背に」(2014-29)である。父への感謝には「汗だくの 父の背中に『お疲れ様』」(2010-14)や「父さんの 寝ている背中に ありがとう」(2013-19)などがある。

68)「肉じゃがを 作って母の 手間を知る」(2014-35)などがある。

(57) 2007-31 家族より 犬が喜ぶ 父の帰り
(58) 2007-42「九州は 出るな」父親 照れ怒り
(59) 2012-18 ごつごつの 父のてのひら 誇らしく
(60) 2013-23 お父さん いつか親父と 呼んでみたい
(61) 2010-30 父の背を こしておやじと よんだ春

「父」を主題とした作品に共通する要素は、(57)のような家族からの冷遇[69]と(58)のような不器用さ・寡黙さ[70]、(59)のように誇りに思う心情[71]である。興味深い作品として、(60)(61)には息子らしい表現が見られる。(60)に見られるように、男の子にとって父親は越えるべき目標であるようだ。(60)の場合は、その象徴を「親父」という呼称に託している。(60)では、まだそう呼べないと感じている様子だが、(61)では「背」を越したことで、親父と呼ぶことにしたようである。

(62) 2005-16 小言から 感じてはいる 親心
(63) 2006-21 健康が 私ができる 親孝行
(64) 2009-12 父と母 政権交代 いつの日か

「両親」を主題とした作品は、(62)のような「親心」に対する感謝[72]と反発[73]、(63)のような「親孝行」が主な内容となっている。(62)の場合、「小言から　感じて**は**いる」の「は」から、親心を感じて感謝しているものの、なかなか素直に受け入れられない心情が表現されている。また、(63)のような親孝行を題材とした作品では、「健康」のほかに「笑うこと」(2010-39)を親孝行と考えているものや、今は何もできないが、「待っててください」(2013-35)という作品などが見られる。

一方、(64)は、自分と親との関係ではなく、子供の目線から夫婦の関係を見つめた作品である。「父」が先に来ているが、おそらく「母」の方が「政権」であろうと思われる。

---

69)「たばこ吸う 父に一言 出て行って」(2012-25)などである。
70)「試合の朝 しゃべらぬ父が 頑張れよ」(2009-03)などがこれに当たる。
71)「仕事みて 父のデカさを 知った夏」(2011-03)などが挙げられる。
72)「働いて 初めてわかる 親心」(2007-12)「今気づく 離れて分かる 親の愛」(2010-11)等。
73)「勉強せい 親の小言で ヤル気失せ」(2005-19)などがある。

(65) 2012-35 ひとつまみ 塩を麦茶に 祖母の愛
(66) 2006-21 じいちゃんが 不器用ながら くれる愛
(67) 2010-25 さあ食べて！ 祖父母の愛で また太る

「祖父母」に共通するのは「愛」である。また、祖母の愛情を細やかな気遣いに、祖父を不器用に描いている点は、父と母の愛情表現の違いとも共通する。

(68) 2012-23 テレビ消し 話がはずんだ 夕ごはん
(69) 2012-42 ロンドンの おかげで家族が リビングに

「家族」を主題とした作品では、主に「団欒」がテーマとなっている。(68)ではテレビを消したことで団欒が実現しているが、(69)では反対に、テレビをつけ、オリンピックを観戦することで、家族が顔を揃えている。このように、団欒のきっかけは様々のようである。

(70) 2006-10 弟の 急な背の伸び 焦る僕
(71) 2012-22 夏休み 弟とつくる 昼ご飯
(72) 2012-51 がんばれと はげます兄貴 フリーター
(73) 2010-28 龍馬伝 観た姉最近 土佐弁に

「兄弟」を主題とした作品は、上の4首が全てである。(70)では兄弟の微笑ましいライバル関係が描かれているが、全体的に、仲睦まじい様子がうかがえる[74]。

2.3. 日常関連

ここでは、学校生活や家族をテーマとしたものではなく、日常生活での何気ない一面を主題とした作品を扱う。このカテゴリーに分類されるのは、「日常風景」(38首)、「季節・天候」(34首)、「気づいたこと」(17首)、「容姿・ダイエット」(4首)である。

74) 「『頑張れ』と はげます父も 後がない」(2005-24)や、「髪切れと 怒る教師は 髪がない」(2008-34)という皮肉めいた作品にも、共通点を見いだすことができる。

(74) 2009-39 意味もなく 開けてはのぞく 冷蔵庫
(75) 2006-38 目覚ましの 消し方覚える 無意識に
(76) 2010-06 初メイク 見た目はまるで 罰ゲーム
(77) 2010-27 私より オシャレな服着る マイペット
(78) 2012-06 大掃除 思い出見つかり 長掃除
(79) 2007-05 朝起きて 時計見るより メール見る
(80) 2007-34 オイのび太 俺にゆずれよ ドラえもん

まず「日常風景」に分類された作品を見ていく。何気ない情景が描かれた作品群であるため、全体の共通点を見出すのは難しいが、特徴的な内容を挙げれば、(74)のように平凡で特定の主題の見当たらない、しかし多くの高校生が共感できるであろう情景[75]や、(75)のような怠惰な日常の姿[76]、(76)をはじめとする、日常における小さな失敗[77]、(77)のような動物に関する作品[78]、(78)のような、掃除中に思い出に浸る様子[79]、(79)に表れた携帯電話に依存した姿[80]、(80)のようにアニメを用いた作品[81]が確認できる。

(81) 2013-46 雨上り 蜘蛛の巣見れば 観覧車
(82) 2014-19 蜘蛛の巣は 一雨過ぎれば シャンデリア
(83) 2011-44 雨あがり 景色はまるで ハイビジョン
(84) 2012-41 夏の道 雲に向かって ペダルこぐ

---

75) 「文房具 消費するたび 満足感」(2010-38)や「オリンピック 知らない人と 盛り上がる」(2012-08)などもこれに当たると考えられる。
76) 「『あと五分』布団が私を 逃さない」(2007-07)や、「身についた 遅寝遅おき 夏休み」(2006-14)などが挙げられる。
77) 「"ハイチーズ"と 言ってしまった 葬儀写真」(2005-22)「噂する ふと前見ると 相手いる」(2006-42)「割引券 ためにたまって 期限切れ」(2007-44)などである。
78) 「飼い犬に 毎日散歩を させられる」(2010-33)「コンビニで ねこにたかられ ちくわ買う」(2009-35)などである。
79) 「部屋掃除 思い出出てきて 部屋荒れる」(2013-42)などがある。
80) 「携帯を 何度も見かえす 一人の夜」(2005-10)などが挙げられる。
81) (80)の中で用いられた語調は、ドラえもんの「ジャイアン」の口ぶりを真似たものであろう。このほかには、ドラえもんと同じく国民アニメと呼ばれる「サザエさん」を用いて、いわゆる「サザエさん症候群」の様子を描いた「サザエさん 明日の学校 思い出す」(2008-17)がある。

(81)(82)は、どちらも雨上りの「蜘蛛の巣」の印象を表現している。同じ情景でありながら、(81)では蜘蛛の巣の形状を「観覧車」に喩えているが、(82)では、雨上りにキラキラと光る様子を「シャンデリア」に喩えている。また、(83)では、雨上りの視界の良い景色を「ハイビジョン」のようだと述べている。本来は、ハイビジョンを見て「本物の自然の景色のようだ」と表現するのが正しいのであろうが、そのような枠に縛られない、自由な発想力を発揮している。

このように「季節・天候」を主題とした作品は、(81)から(83)のような自然の景色についての印象[82]と、(84)のような自然の中における己の姿[83]に大別できる。

(85) 2009-26 いいことは なかなか目には 見えなくて
(86) 2011-23「ただいま」と 帰れる家の ありがたみ
(87) 2006-39 似てるけど 似て非なる 幸と辛[84]
(88) 2006-45 失って 初めて気づく 当たり前

ここでは「気づいたこと」に分類された作品を見ていく。上の4首を見ても理解されるように、どのようなきっかけがあったのかは示されていないが、彼らは生活の様々な場面で、色々なことに気づいているようである。ただし、(86)の場合は、2011年に詠まれていることから、震災で家を失い、避難所等で暮らす人々の姿に接したものと思われる。

(89) 2005-47 よく寝る子 育つと言うが 横育ち
(90) 2005-48 食って寝て あれば優勝 女子相撲
(91) 2006-04 ダイエット 私はいつも 明日から
(92) 2012-54 ダイエット 食後に一言 明日から

---

82) 「寝そべって 星空見れば こんぺいとう」(2012-36)「金魚鉢 夜空写して 星を飼う」(2011-45)「暑い日は ペットボトルも 汗をかく」(2011-19)など、まさに豊かな感受性を発揮し、ユニークな比喩などを用いた作品が確認された。

83) 「初夏の風 プランコ高く 足上げる」(2008-27)「夏空と 心の青さ 競い合う」(2010-31)「夏休み 潮の香りの 日記帳」(2010-17)等がある。

84) 同様の内容を詠んだ作品として「幸せと 辛いという字 なぜ似てる」(2014-31)がある。だが(87)では、二つの漢字が「形は似ているが意味は異なる」という事実を指摘するのみであるが、この作品では、その理由にまで関心を持っている点に違いがあると言えよう。

「容姿・ダイエット」を主題とした作品は上の4首のみである。(89)(90)では、生活習慣から太ってしまったようだが、気に留める様子もなく、生活を改めようという意思も示されていない。(91)と(92)では、ほぼ同じ内容が詠まれており、ダイエットを意識しつつも、一歩を踏み出せずにいる様子が描かれている。

2.4. 社会関連

最後に「社会関連」(43首)に分類された作品を分析する。ここに属するのは「社会問題」(24首)と「東日本大震災」(19首)である。

(93) 2007-09 宮崎や 良くも悪くも そのまんま
(94) 2007-51 車まで 植物食べる バイオ社会
(95) 2011-09 なぜだろう 少子化なのに 就職難

社会問題を主題とした作品は、(93)のような政治問題が8首[85]、(94)のような環境問題が8首[86]、(95)のようなその他の問題が8首[87]である。(93)では、当時、県知事に当選した元タレントの芸名(そのまんま)を諷刺に用いているようであるが、政治関連の作品では、他にもこうした諷刺やパロディが見られた[88]。

(96) 2011-11 日本を 立て直すんだ 俺達が
(97) 2011-08 まず一歩 踏み出したいと 被災地へ
(98) 2011-18 買い物で おつりが出たら 義援金
(99) 2011-28 忘れない あの日の津波 いつまでも
(100) 2011-49 大地震 世界をつなぐ 支援の輪

---

85) 「政治家と 夏の暑さにゃ もう限界」(2012-44)「増加中 世界遺産と 総理たち」(2011-15)等。
86) 「近代化 それと引き換え 温暖化」(2009-15)のように、環境問題に対する客観的な叙述や、「マイはしを 持って歩いて エコのミ-(ME)」(2009-17)のように、自分ができることを実践している様子を詠んだ句もある。また、この作品では「エコのミ-」という表現によって、自分も環境問題に貢献できるという意味と、「Economy」(経済的)という意味が込められている。
87) 「ETC みんなつけたら 進まない」(2009-14)や「青い空 平和な国の 宝物」(2013-50)など。
88) 例えば「あなたとは 違うんですと 言われても」(2008-37)では、当時の首相の発言を用いて、呆れた心情を表現している。また「消費税 スギちゃんいわく 高いぜぇ(税)」(2012-24)では、消費税の引き上げについて、当時流行したお笑い芸人の「～だぜぇ」という口調を用いている。

東日本大震災を主題とした作品は、殆んどが2011年に詠まれており(16首)、2012年は2首、2013年は1首となっている。内容面では(96)のように「日本を立て直そう」という意気込みを詠んだものが4首[89]、(97)のように、自ら被災地へ赴いた体験を述べたものが2首[90]、(98)のような募金に関する句が3首[91]、(99)のように震災および震災後の情景を詠んだものが6首[92]、(100)のように、「支え合い」について詠んだ作品が4首[93]と、5つの類型に分けることができる。

ベネッセ(2011)によると、2割以上の高校生が、震災当時にボランティア活動や物資の支援など「被災地と主体的に関わりを持った」経験があるという。また、3人に1人が震災を機に「社会に貢献したい気持ちが強まった」と答えている。

被災地の高校生はもちろんのこと、全国の高校生たちに、東日本大震災は、様々な影響を与え、彼らはその胸に、多くのことを感じているようである。

Ⅳ. おわりに

以上のように、本稿では、現代の高校生たちの率直な心情が綴られた「高校生川柳」を対象として、「語彙」と「主題」という観点から分析し、言語表現上の特徴と関心事、そして彼らの目に映った様々な心象風景の一断面を観察した。

その結果、彼らは豊かな発想力で、多様な語彙に様々な意味や心情を託し、比喩や諷刺、ユーモアなどを用いて、自らの世界観を巧みに表現していた。

また、主題という観点からは、彼らの関心事は学校生活、日常生活から社会問題まで、多岐にわたっていた。そして、様々な現実の課題に悩みながらも、夢を持って一歩一歩、懸命に生きている様子が、生き生きと描かれていた。

---

89) 「塗りかえろ 日本の未来 虹色に」(2012-50)などである。
90) もう1首は「ボランティア 行った私が 癒されて」(2011-10)という作品である。
91) 「募金して 空の財布に 苦笑い」(2011-40)などである。
92) 「悲しみの がれきの上に 虹かかる」(2011-24)などもある。
93) 「立ち上がれ 今がその時 手を繋ぎ」(2011-43)などの作品がある。

참고문헌

伊藤貴雄(2014)「現代川柳における語彙・技法・内容の一断面：『サラリーマン川柳』に見る特徴と現代日本人の心象風景」『日本語学研究』39, 韓国日本語学会, pp.175-194
伊藤貴雄・白静姫(2014)「『シルバー川柳』に見る日本の高齢者の心象風景」『日本研究』60, 韓国外国語大学校 日本研究所, pp.181-204
上野 力(1982)「江戸川柳にみる文字生活」『常葉学園短期大学紀要』14, pp.23-30.
NHK(2012)「中学生・高校生の生活と意識調査・2012」pp.1-20.
NHK放送文化研究所(2008)『日本人の好きなもの』NHK出版, pp.1-201.
近江正隆(1957)「古川柳と金貨幣」『立正大学文学部論叢』7, pp.47-65
大多和直樹(2001)「消費都市における生徒文化：高校生文化と進路形成の変容・東京調査より」『日本教育社会学会大会発表要旨集録』53, pp.322-323.
岡本祐子・田村典子(2003)「高校生の認知する家族の心理的健康性と親子間コミュニケーションおよび居間の機能の関連性」『広島大学心理学研究』3, pp.157-168.
尾崎喜光(1995)「若者の敬語」『青少年問題』42, pp.11-16.
金杉高雄(2012)「日本語の現在：『ラ抜き言葉』の創発」『太成学院大学紀要』14, pp.53-62.
小泉和子(2012)「道具が語る江戸のくらし」『社会教育情報』5月号, 大田区教育委員会, p.1.
近藤武一(1954)「古川柳の社会経済史的考察」『金城大学論集』4, pp.98-120
_____(1955)「古川柳を通してみた庶民生活」『金城大学論集』6, pp.124-150
シティリビング編集部(2013)『女子会川柳』ポプラ社, pp.1-124.
塩田雄大・滝島雅子(2013)「『日本語は乱れている：9割』時代の実相」『放送研究と文化』10月号, NHK放送文化研究所, pp.22-43.
下権谷久和(2004)『現代日本の高校生の対人関係能力に関する研究』岩手大学修士論文 p.2
社団法人全国高等学校PTA連合会・リクルート(2012)「高校生と保護者の進路に関する意識調査2011」『PRESS RELEASE』01月30日号, リクルート, pp.1-2.
ダイキン(2012)『現代人の空気感調査総合報告書』pp.1-33.
寺沢美彦ほか(2007)「老年期における思考の柔軟性について(3)」日本心理学会71回大会発表原稿, p.1.
内閣府(2007)「家族のつながり」『平成19年度版 国民生活白書』pp.9-15.
西川由紀子(2003)「子どもの自称詞の使い分け」『発達心理学研究』14, 日本発達心理学会, pp.25-38.
ネオマーケティング(2012)「夏バテと夏の風物詩に関する調査」pp.1-13.
林 道義(1955)「江戸囲碁川柳の研究」『東京女子大学紀要論集』46(1), pp.1-36.
白静姫・伊藤貴雄(2014)「現代高校生の語彙表現と意味的特徴の一断面：創作短歌『SEITO百人一首』における語彙と意味を中心に」『日本語学研究』42, 韓国日本語

学会, pp.75-93.
ベネッセ教育総合研究所(2008)『放課後の生活時間調査 速報版』pp.1-24.
ベネッセ(2009)『ベネッセ教育情報サイト』
http://benesse.jp/blog/20090709/p1.html (検索日：2014年12月28日)
ベネッセ教育研究開発センター(2011)「高校生と保護者の学習・進路に関する意識調査」pp.1-4.
_____(2013)「高校生の意識」『高校データブック2013』pp. 53-64.
山下克子(2011)「東日本大震災に学ぶ科学する心」『生化学』83(8), 日本生化学会, p.687.
山本光正(1994)「川柳より見た近世の旅」『千葉愛敬短期大学紀要』16, pp.17-30.
リクルート(2013)『進学ジャーナル』http://journal.shingakunet.com(検索日：2014年12月20日)

❖ 투고일 : 2015.01.02
❖ 심사완료일 : 2015.02.08
❖ 게재확정일 : 2015.02.09

Abstract

現代高校生の語彙表現と心象風景の一断面
-「高校生川柳」における語彙と主題を中心に-

伊藤貴雄・大池森

本稿は「高校生川柳」を対象として、「語彙」と「主題」という観点から、今を生きる日本の高校生の言語表現の特徴を分析し、彼らの胸の内に映じた心象風景の一端を描き出そうとした。

その結果、まず語彙という観点では「母」が最も多く用いられており、そのほか、家族と自分に関する語彙、季節・天候に関する語彙、家族以外の身近な人々に関する語彙、情意的語彙、言語表現に関する語彙など、多様な語彙に様々な意味や心情を託し、巧みな比喩や諷刺、ユーモアなどを用いて、自らの心の奥にある世界観を見事に表現していた。

また、主題という観点では、勉強・受験に関する内容が最も多くを占めたが、そのほかにも学校生活や家族との関係、日常生活から社会問題におよぶまで、多岐にわたる分野の事柄を題材としており、彼らの関心の幅広さが表れていた。

そして、作品全般を通して、様々な現実の課題に悩みながらも、夢を持って一歩一歩、懸命に生きる日本の高校生の様子が、生き生きと描かれていた。

Key Words ：川柳，語彙論，意味論，日本の高校生，日本社会

Abstract

A Study of Vocabulary Expression and Imagined Scenery of Contemporary Japanese High School Students

- Focusing on the vocabulary and themes found in "High School Students' *Senryu*" -

Ito, Takao · Oike, Shin

The aim of this study was to analyze the characteristics of the vocabulary used by Japanese high school students in modern society, centering on "High School Students' *senryu*," and imagined scenery. With respect to vocabulary, the results of the analysis showed that the most commonly used word was "mother," and other frequently used vocabulary included words that were related to one's family and oneself, weather and seasons, people around oneself other than one's family, as well as sentimental words and words related to linguistic expressions. Students used diverse vocabulary to convey various meanings and sentiments and even used figure of speech, satire, and humor to express their worldviews.

The most common theme, on the other hand, was related to studying and college entrance. Other common themes were school life, family relationships, and social issues. A wide range of themes were touched upon, showing that the students had broad interests. In all of the works, it was revealed that the students were striving toward their dreams despite the various real challenges and issues they were dealing with.

Key Words : *senryu*, lexicology, semantics, Japanese high school students, Japanese society